



CONTENTS

- 令和3年度 第2回スキルアップ研修会 実施報告
- 新型コロナウイルス感染症と児童館
～子どもたちを感染から守る～
- 遊びのプログラム ● 遊び工作



令和3年度 第2回スキルアップ研修会 実施報告

気がかりな子どもたちに関する事例研修会

- 日時：令和3年12月15日(水) 10:00～12:00
- 会場：福井県生活学習館(ユウ・アイ ふくい)
- 講師：福井県立大学社会福祉学科 教授 吉弘 淳一 氏
 - ・基本講義
 - ・グループに分かれて意見交換
 - ・講師によるアドバイス



新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、ソーシャルディスタンスを確保した座席レイアウトにて、グループ討議を実施。

今回は、基本講義の後に参加者が持ち寄った事例について討議しました。コロナ禍ではありましたが、感染防止対策をしてグループワークを交えた研修会を行うことができました。2時間という短い時間でしたが、参加者同士が話し合い、問題を共有し共感できた貴重な時間となりました。

講師よりアドバイス

子どもの一挙一動を見逃さない観察力

小学校が終わってから走ってくる子ども、下を向いてくる子ども、にこにこしながら入ってくる子ども、辛そうに来る子ども…まずは「こんにちは」のあいさつの後に「子どもの表情を言葉に代えて伝えてあげてください」。観察力がコミュニケーションの重要な部分になります。辛そうには根掘り葉掘り聞くのではなく、「いつも元気なのにしんどそうやね心配だよ」と共感の言葉をかけます。

子どもの言動の背景を考察

子どもが何かをした時には、そうせざるを得ない子どもの気持ちに寄り添い共感し、言動の背景にあるものに着目しましょう。結果ではなく、プロセスの中で物事を捉えて考えましょう。また叱った後のフォローをしながら、信頼関係を構築していくことも大切です。

子どものいいところノートを作り褒める、保護者にも子どもの成長を伝える

気になる子どもについては、日常生活のなかで、いいところをとらえて帰りにそれを褒めてあげたり、いいところノートを作って、それを書いておきます。問題行動、課題行動が多いと思うと、そこしか見られなくなってしまうですが、そうではなくて日々の活動の中でこんないい行動をした、あんな関わりをしていたと、それを記録に残しておきます。子どもの様子をよく見ておく、スタッフ間で共有しておくことが重要です。あとで保護者に話す時にも、積極的に伝えることができます。

参加者の声

講義について ・子どものいいところノートは活用していきたいです。
・子どもに関わる時は、決めつけの姿勢で臨むのではなく子どもを多方面から見ようとしています。
・子どもに対しての言葉選びが大事。子どもの悪い所ばかり見がちだが、良い所をしっかり見てあげたいです。
・学校との関わり、保護者との連携が難しい部分があるが努力していきたいです。

グループ討議について ・この研修会に参加して、悩みは同じ、困っていることも同じ。答えは出なかったが皆さんと話を参考になることが非常に多かったです。
・グループワークをしたことで、他の児童館・児童クラブの子どもたちへの関わり方を知ることが出来ました。
・意見交換の場は、普段あまりないのでとてもよい時間でした。

全体を通して ・改めて児童館・児童クラブのネットワーク(学校・保護者)が必要だと感じました。その連携のために常に子どもたちを見守ることの大切さを感じました。

発行者：福井県児童館連絡協議会

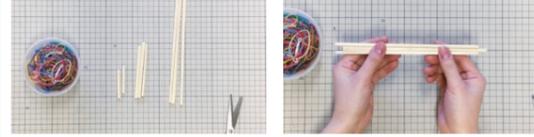
●ご意見・ご感想は… 福井県児童館連絡協議会事務局(福井県児童科学館内)
〒919-0475 福井県坂井市春江町東太郎丸3-1
TEL: (0776) 51-8000 FAX: (0776) 51-6666 E-mail: kenjiren@angelland.or.jp
URL: https://angelland.or.jp/modules/info/index.php?action=PageView&page_id=14

あらかじめ、
幸せだったらいいな。

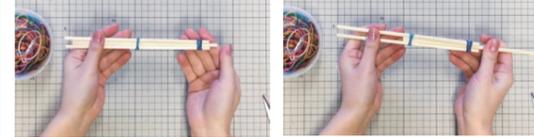


わりばしでつぼうをつくろう

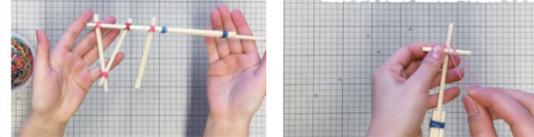
- 1 わりばし2本をはさみで半分の長さに切ります。半分の長さに切ったわりばし1本をさらにはさみで半分の長さに切ります。
- 2 割り箸を3本重ねて持ちます。真ん中の1本を少し飛び出させます。



- 3 右端を輪ゴムできつく縛ります。しぼった輪ゴムを真ん中に移動させます。もう一度、右端を輪ゴムで縛ります。
- 4 飛び出している割り箸をさらにひっぱり出します。



- 5 半分に切った割り箸を左端から縦に差し込みます。
- 6 飛び出しているところに輪ゴムをかけて、左右斜めにくるくる輪ゴムをかけて縛ります。最後に飛び出しているところに輪ゴムをひっかけて固定します。
- 7 半分に切った割り箸の残り2本も同じように輪ゴムで固定します。



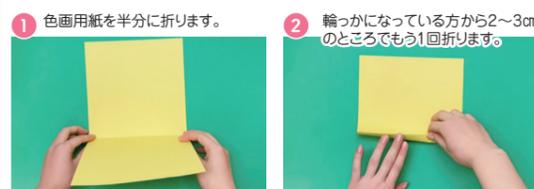
- 8 左端の2本の割り箸を重ね3角形ができるように輪ゴムでとめます。持ち手と引き金ができました。
- 9 最後に、1番短い割り箸を鉄砲の先の所に十字になるように固定して、左右斜めにくるくる輪ゴムをかけて縛ります。割り箸鉄砲の完成です。
- 10 的あての的は、紙を折り曲げ、後ろを3角形にしてのりで貼ります。飾りつけします。
- 11 バッテンになっている先の所に輪ゴムをかけ、引っ張って引っ張って引き金の上の飛び出している所にひっかけます。
- 12 的をめかけて「1・2・3!」引き金をひきます。



インターネットで動画配信中!
<https://www.youtube.com/watch?v=gghyd-pmKAV0>



用意するもの
輪ゴム、わりばし 4本(割ったもの)、はさみ



用意するもの
色画用紙、のり、鉛筆、はさみ、セロハンテープ、ストロー2本、普通の太さ1本、細め1本、マジック、色鉛筆 など



インターネットで動画配信中!
https://www.youtube.com/watch?v=oW9mWnZo_4

新型コロナウイルス感染症と児童館 ～子どもたちを感染から守る～

新型コロナウイルス感染対策も3年目となるに当たって、改めて全国・県内の児童館での取り組み事例を紹介しながら、児童館における感染対策を確認します。

基本的な取組姿勢

新型コロナウイルスへの感染を予防し、子どもの健全育成を推進していくために、児童館では以下の3点を基本的な取組姿勢とすることが求められています。

子どもを感染から守ること

遊びを通じた健全育成活動を継続すること

地域の実情に応じて判断すること

館内の対策

児童館を利用する子どもたちには、わかりやすくルールを理解してもらうためのポスターなどの掲示物を工夫したほか、クイズを活用したり、手洗いの歌や動画をつくるなどの工夫が見られました。

1 掲示の工夫

- 「距離をとろう」「マスクをしよう」など、やさしい言葉で書いたポスターを作成した。
- 「食事中はおしゃべりをしない」「手指消毒をしよう」などを掲示(イラスト付き)して伝える。
- 既存のルールと感染予防として加えた新たなルールを〇×クイズで来館児童がクイズを解いて、ルールの周知を行った。



2 ソーシャルディスタンスの徹底

- ソーシャルディスタンスをとるために印を(マーク)をつける、換気、距離をとって行える製作の実施。
- フラフープを間隔を離して置き、フラフープ一つに一人が入り、距離を保つ。
- ソーシャルディスタンスマットを作り、間隔を取って、そのマットの上に乗って絵本の読み聞かせをした。



学習室の机に設置したアクリルパーテーション

3 手洗いの工夫



- 紙芝居を使って、または実演しながら、手洗いの仕方やアルコール消毒の仕方を説明し、実践した。
- 30分～1時間に1回手洗いタイムを設定。その際、決まった手洗いソングを流すことで習慣化することができた。

4 消毒等の工夫

- 紙でできた遊具を消毒できるように、ラミネートした。
- レクリエーションで使う遊具等を新聞紙や紙コップなどの材料に置き換え、消毒や清掃をしなくてもよい対応をとった。



AI検温モニターによる検温の様子

5 新たな利用のルール

- 遊ぶお部屋は、ホール、プレイルーム、図書室、工作室の4部屋あり、スタンプカードを用意して1部屋30分ごとの入れ替え制とし、一度にお部屋に入れる人数も10人までと制限をして感染予防に努めた。
- 子ども達に人気のドッジボールは、10人以上になったら10分間に時間を短縮し密を避ける。
- プロジェクターを使用した読み聞かせを実施した。



子どもの遊びのプログラムの見直し

児童館の利用だけでなく、子どもたちの遊びのプログラム自体も様々な見直しや制限を設けることになりました。「一人で遊ぶ(身体を動かすことも含む)」「一箇所に集まらない」などの工夫がありました。

1 遊びのプログラムの見直し

- 新年のおたのしみ会の「わりばしダーツ」では子どもたちの立ち位置をシートで決めてソーシャルディスタンスをとりながら楽しんだり、「ふくわらい」ではアイマスクにキッチンペーパー(使い捨て)を入れて接触を防いだ。
- 少人数でできる卓球・バドミントン・輪車・竹馬等をすすめるとともに、ポッチャ等の新しい遊びの普及に努めている。
- 個人でできる遊びについて(けん玉、フープ、なわとび、万歩計計測など)仲間と離れて同時スタートするなど点数をつけ、加算することなどでゲーム的に楽しませた。



わりばしダーツの様子



ふくわらいを楽しむ子どもたち

2 施設等の利用の見直し

- 学年別などの人数制限をかけた利用とした。
- 小学生向けのクイズを各部屋に掲示し、一か所に集まらないように事業を展開した。
- 実施日や人数を制限して、複数の小グループを作って行うような事業を個別にできるように改変した。



遊びのプログラム

今回は福井県児童科学館で実施された『なぞときエンゼルクエスト～ともだちをさがせ!～』をご紹介します。



遊び方

- ◎受付で「クエスト用紙」と「マップ」、鉛筆をもらおう。
- ◎「マップ」に描かれた①～④のポイントにあるヒントをみつけて、⑤で4つのヒントに当てはまる「ともだち」をさがそう。クエスト用紙に答えを書いてゴールで答えあわせしよう!

各児童館でのマップにアレンジしてやってみよう!

受付 スタート!

クエスト用紙

マップ

ポイントに設置してあるヒントをメモしながら進もう



3密避けVer.

受付からスタートするときには、各ポイントが密にならないように、グループごとに時間を空けてスタートします。巡回係は、各ポイントで込み合う場合は、列整備を行い、ソーシャルディスタンスを保つよう呼びかけます。

ゴール! 答え合わせ

5 ともだちは、だれかわかったかな?



このプログラムに関するお問い合わせは
福井県児童科学館 まで
(TEL:0776-51-8000)